



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年1月27日

上場会社名 株式会社スペースシャワーネットワーク 上場取引所 東
 コード番号 4838 URL <https://www.spaceshower.net/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 吉人
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 北島 直樹 TEL 03-3585-3242
 四半期報告書提出予定日 2023年2月9日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無: 無
 四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	11,338	14.8	167	257.1	354	△28.3	259	△36.0
2022年3月期第3四半期	9,873	14.5	46	-	494	-	406	-

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 261百万円 (△34.4%) 2022年3月期第3四半期 399百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	31.15	-
2022年3月期第3四半期	35.85	-

(参考) 持分法投資損益 2023年3月期第3四半期 1百万円 2022年3月期第3四半期 4百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	6,979	3,560	51.0
2022年3月期	7,264	3,361	46.2

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 3,560百万円 2022年3月期 3,356百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	-	0.00	-	10.00	10.00
2023年3月期	-	0.00	-		
2023年3月期(予想)				10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,325	10.5	63	-	516	△6.4	344	△39.9	41.26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	8,811,354株	2022年3月期	11,330,800株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	449,881株	2022年3月期	3,019,446株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	8,344,767株	2022年3月期3Q	11,330,754株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	10
(収益認識関係)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に対する行動制限や海外からの入国制限が緩和されたことなどにより、緩やかに持ち直しの動きが見られましたが、ウクライナ情勢の長期化や急激な為替の変動、世界的なインフレの進行とそれを抑制するための金融引き締めによる世界経済の減速懸念などにより、依然として先行きが不透明な状況が続いております。

当社グループの事業に関連する、音楽・エンタテインメント業界においては、各種サービスのデジタルシフトが急速に進み、定額サブスクリプションの音楽配信やライブ・イベント動画配信の普及・定着により、コンテンツのデジタル配信市場が堅調な成長を続けるとともに、デジタルプラットフォームの普及により、グローバルに向けたコンテンツ提供が容易となりました。一方で、ライブ・イベント市場については、長引く新型コロナウイルス感染症の影響により回復が遅れていましたが、足下では、集客制限の緩和に伴い、十分な感染対策を行った上で、ライブ・イベント再開の動きが徐々に活発化しており、公演回数、動員数ともに回復の兆しを見せております。

このように社会・経済環境が急速に変化する中、当社グループでは、アーティスト・クリエイターに向けたデジタルを中心とするソリューションの提供や、ユーザー・ファンに向けたライブ・イベント等コンテンツを通じた感動の提供による事業成長を目指すべく、2022年5月13日に、当社グループの中期経営計画「Daylight 2024」（2022～2024年度）を公表いたしました。本中期経営計画において、当社グループの事業セグメントを「メディア セグメント」、「ライブ・コンテンツ セグメント」、「ソリューション セグメント」の3セグメントに再編するとともに、市場が縮小傾向にある既存の有料放送事業を中心とした「メディア セグメント」の収益を守りつつ、「ライブ・コンテンツ セグメント」と「ソリューション セグメント」を成長の重点領域として事業収益の拡大を目指す方針を示すとともに、今後3年間の当社グループの方向性や収益目標を掲げました。2023年3月期からの3カ年、本中期経営計画のもと、事業の成長と企業価値向上の実現に向け、事業計画を推進してまいります。

当第3四半期連結会計期間においては、2022年12月1日に、当社グループの㈱セツプが㈱Qconceptと共同で、音楽ライブ映像向けのリアルタイムARグラフィックシステム「instrack」を開発したことを発表いたしました。

「instrack」は、AI技術を用いてカメラ映像内のAR演出に利用可能な情報を検出・解析し、リアルタイムでカメラ映像にARグラフィックを合成することができるシステムで、既存の映像制作にも手軽に導入することができることから、生放送・生配信など、当社グループ内外の様々な場面での利用を見込んでおります。

また、2022年12月25日には、当社グループのインフィニア㈱の運営するエンターテインメントカフェ「あっとほおむカフェ」が、2023年3月に国内10店舗目、大阪では3店舗目となる新店舗「あっとほおむカフェ大阪本店3F」をオープンすることを発表いたしました。2019年6月に大阪進出1号店を開店して以来、多くのお客様に来店いただき、今後、インバウンド需要など、さらに需要の増加が見込まれることから、新店舗をオープンすることといたしました。引き続き、既存ビジネスの拡大とともに、新技術も用いた新たなサービスの開発にも注力してまいります。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、コロナ禍で大きな影響を受けたライブイベントや店舗ビジネスが回復軌道に入ったことなどを受け、売上高は11,338,821千円と前年同期比1,464,856千円増（同14.8%増）、営業損益は営業利益167,795千円と前年同期比120,807千円増（同257.1%増）と前年同期比で増収増益となりました。一方で、助成金収入が減少したことにより、経常損益は経常利益354,232千円と前年同期比140,057千円減（同28.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純損益は親会社株主に帰属する四半期純利益259,962千円と前年同期比146,196千円減（同36.0%減）と、前年同期比で減益となりました。

(セグメント区分の変更)

当社は、『中期経営計画「Daylight 2024」(2022～2024年度)』にて開示した内容通り、本年度より報告セグメントの変更を行っております。また、各セグメントの主な事業内容は下記の通りとなります。

報告セグメント	主な事業内容
メディア	<ul style="list-style-type: none"> ・有料放送事業：「スペースシャワーTV」及び「スペースシャワーTVプラス」の運営 ・オンデマンド事業：「スペースシャワーオンデマンド」の運営 ・映像制作事業：音楽ライブの映像収録やプロモーションビデオの映像制作等
ライブ・コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント事業：「SWEET LOVE SHOWER」「POPYOURS」等の主催イベントの企画運営 ・ライブハウス事業：ライブハウス「WWW」「WWWX」の運営 ・マネジメント事業：当社所属アーティストのマネジメント ・エージェンツ事業：アーティストのプロデュース・サポートなど ・アライアンス事業：協賛広告の獲得や他社とのコンテンツの共同制作など ・エンターテイメントカフェ事業：「あっとほおーむカフェ」の運営
ソリューション	<ul style="list-style-type: none"> ・ディストリビューション事業：音楽配信やパッケージを通じた楽曲等の流通 ・ファンクラブ事業：アーティスト等のファンクラブ/ファンサイトの運営 ・EC/MD事業：グッズの企画制作やECサイト「スペシャストア」の運営

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更するとともに、報告セグメントへの管理コストの配賦方法を変更しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報)」に記載のとおりであります。前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後の報告セグメントの区分方法及び新しい配賦方法に基づき組み替えた数値で比較しております。

①メディア セグメント

有料放送事業において、番組販売売上が減少したことなどにより、前年同期比で減収減益となりました。映像制作事業においては、ライブの映像収録案件等の受注が増加したものの助成金収入が減少したことにより、前年同期比で増収減益となりました。

この結果、当セグメントの売上高は3,666,487千円と前年同期比297,526千円減(同7.5%減)となり、セグメント損益(経常損益)につきましてはセグメント利益(経常利益)337,970千円と前年同期比51,244千円減(同13.2%減)と、減収減益となりました。

②ライブ・コンテンツ セグメント

ライブハウス事業やエンターテイメントカフェ事業など店舗ビジネスにおいては、コロナ禍からの回復傾向が続いたことにより、前年同期比で増収増益となりました。また、イベント事業においては、当第1四半期連結会計期間に開催した、投資フェーズにある新たな大型イベント「SWEET LOVE SHOWER SPRING 2022」や「POP YOURS」の立ち上げに伴い、コスト負担が増加したものの、2022年8月に当社主催の夏の野外音楽フェス「SWEET LOVE SHOWER 2022」を3年ぶりに開催できたことから、前年同期比で増収増益となりました。

この結果、売上高は4,426,667千円と前年同期比1,337,463千円増(同43.3%増)となり、セグメント損益(経常損益)につきましてはセグメント利益(経常利益)114,004千円と前年同期比53,690千円増(同89.0%増)と、増収増益となりました。

③ソリューション セグメント

ディストリビューション事業において、音楽配信売上が増加したものの、音楽配信の運営体制強化に向け、人員の再配置に伴う人件費等の固定費や配信システムの運用コストが増加したことなどにより、前年同期比で増収減益となりました。また、ファンクラブ事業において、受託案件が減少したことなどにより、前年同期比で減収減益となりました。

この結果、売上高は3,245,667千円と前年同期比424,919千円増(同15.1%増)となり、セグメント損益(経常損益)につきましてはセグメント損失(経常損失)104,201千円と前年同期比144,192千円減(前年同期はセグメント利益(経常利益)39,991千円)と、増収減益となりました。

（2）財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、主に仕掛品が81,139千円、その他流動資産が169,887千円増加した一方で、受取手形及び売掛金が294,777千円、投資有価証券が100,621千円、繰延税金資産が146,616千円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ285,680千円減少し、6,979,226千円となりました。

負債は、主に未払金が100,469千円、その他固定負債が101,383千円増加した一方で、買掛金が318,049千円、未払法人税等が50,523千円、その他流動負債が203,357千円、役員退職慰労引当金が100,998千円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ485,038千円減少し、3,418,783千円となりました。

純資産は、自己株式の消却により自己株式が1,038,011千円減少した一方で資本剰余金が同額減少しました。また、譲渡制限付株式報酬付与のため自己株式を処分したことにより主に自己株式が20,347千円減少し、利益剰余金が176,848千円増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ199,357千円増加し、3,560,443千円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績を踏まえ、当社グループの連結業績予想につき精査いたしました結果、2022年10月28日に公表いたしました、2023年3月期通期連結業績予想を修正いたします。

詳細につきましては、本日（2023年1月27日）公表いたしました「2023年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,997,394	2,021,840
受取手形及び売掛金	2,302,968	2,008,190
商品	39,249	56,676
仕掛品	136,640	217,779
貯蔵品	7,725	11,131
その他	174,270	344,158
貸倒引当金	△64,725	△50,072
流動資産合計	4,593,523	4,609,704
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,162,065	1,172,628
機械装置及び運搬具	17,487	17,487
工具、器具及び備品	741,315	745,447
土地	52,640	52,640
リース資産	85,070	85,070
建設仮勘定	2,662	18,995
減価償却累計額及び減損損失累計額	△1,105,717	△1,217,763
有形固定資産合計	955,523	874,506
無形固定資産		
商標権	110,987	101,249
ソフトウェア	229,343	226,688
ソフトウェア仮勘定	27,033	73,911
その他	22,281	17,948
無形固定資産合計	389,645	419,797
投資その他の資産		
投資有価証券	262,572	161,950
敷金及び保証金	270,181	268,640
繰延税金資産	735,317	588,700
その他	57,422	56,131
貸倒引当金	△2,265	△2,265
投資その他の資産合計	1,323,228	1,073,158
固定資産合計	2,668,397	2,367,462
繰延資産	2,986	2,059
資産合計	7,264,907	6,979,226

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,917,354	1,599,305
リース債務	14,612	10,300
未払金	288,926	389,396
未払法人税等	60,293	9,769
預り金	212,834	224,881
賞与引当金	188,569	163,878
役員賞与引当金	22,431	18,883
その他	373,745	170,387
流動負債合計	3,078,767	2,586,801
固定負債		
リース債務	8,636	2,008
退職給付に係る負債	692,556	705,727
役員退職慰労引当金	119,201	18,203
その他	4,659	106,043
固定負債合計	825,055	831,982
負債合計	3,903,822	3,418,783
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	2,797,978	1,760,117
利益剰余金	1,691,335	1,868,183
自己株式	△1,241,000	△182,641
株主資本合計	3,348,313	3,545,660
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,051	14,782
その他の包括利益累計額合計	8,051	14,782
非支配株主持分	4,720	—
純資産合計	3,361,085	3,560,443
負債純資産合計	7,264,907	6,979,226

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	9,873,965	11,338,821
売上原価	8,248,040	9,454,479
売上総利益	1,625,924	1,884,342
販売費及び一般管理費	1,578,935	1,716,547
営業利益	46,988	167,795
営業外収益		
受取利息	120	42
受取配当金	517	572
持分法による投資利益	4,681	1,484
為替差益	—	9,079
受取賃貸料	1,377	1,305
業務受託手数料	5,606	372
助成金収入	415,178	157,445
関係会社清算益	18,581	—
雑収入	4,091	16,381
営業外収益合計	450,153	186,682
営業外費用		
支払利息	322	205
為替差損	2,521	—
雑損失	7	38
営業外費用合計	2,851	244
経常利益	494,290	354,232
特別利益		
固定資産売却益	465	86
投資有価証券売却益	—	97,602
その他	—	8,403
特別利益合計	465	106,092
特別損失		
固定資産除却損	3,229	181
投資有価証券売却損	19,344	—
減損損失	—	32,761
特別損失合計	22,573	32,943
税金等調整前四半期純利益	472,182	427,381
法人税、住民税及び事業税	108,838	29,084
法人税等調整額	△33,177	143,055
法人税等合計	75,661	172,139
四半期純利益	396,521	255,241
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△9,636	△4,720
親会社株主に帰属する四半期純利益	406,158	259,962

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	396,521	255,241
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,984	6,730
その他の包括利益合計	2,984	6,730
四半期包括利益	399,506	261,972
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	409,143	266,692
非支配株主に係る四半期包括利益	△9,636	△4,720

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年2月28日開催の取締役会決議に基づき、2022年4月28日付で、自己株式2,519,446株の消却を実施いたしました。この結果、資本剰余金及び自己株式がそれぞれ1,038,011千円減少しました。また、譲渡制限付株式報酬付与のため自己株式を処分したことにより、主に自己株式が20,347千円減少しました。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が1,760,117千円、自己株式が△182,641千円となりました。

(追加情報)

(表示方法の変更)

エンターテインメントカフェ事業の店舗運営にかかる人件費・経費の一部につきまして、これまで「販売費及び一般管理費」としておりましたが、今後の事業収益拡大への取り組みに伴い損益管理区分を見直し、事業の実態をより適切に反映することを目的として、第1四半期連結会計期間より「売上原価」として表示区分を変更することといたしました。

この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の組替えを行っております。なお、組替え前と比較して、前第3四半期連結累計期間の売上原価は504,253千円増加し、売上総利益、販売費及び一般管理費はそれぞれ同額減少いたしましたが、営業損益に与える影響はありません。

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定)

社会生活及び経済活動は徐々に正常化の方向に向かい、2023年3月期末までには通常の社会生活及び経済活動を取り戻せるとの仮定を置いて、繰延税金資産の回収可能性について将来課税所得の見積りを行っております。また、同様の仮定を置いて、固定資産の減損について将来キャッシュ・フローの見積りを行っております。

なお、当該仮定について、前期の有価証券報告書に記載した追加情報の内容から重要な変更はありません。

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。）に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	メディア	ライブ・ コンテンツ	ソリュー ション	計		
売上高						
メディア売上	2,755,007	—	—	2,755,007	—	2,755,007
ライブ・コンテンツ 売上	—	3,089,203	—	3,089,203	—	3,089,203
ソリューション売上	—	—	2,820,747	2,820,747	—	2,820,747
映像制作売上	1,209,006	—	—	1,209,006	—	1,209,006
顧客との契約から生じ る収益	3,964,013	3,089,203	2,820,747	9,873,965	—	9,873,965
外部顧客への売上高	3,964,013	3,089,203	2,820,747	9,873,965	—	9,873,965
セグメント間の内部売 上高又は振替高	13,275	343,868	100,528	457,672	△457,672	—
計	3,977,288	3,433,072	2,921,276	10,331,637	△457,672	9,873,965
セグメント利益	389,215	60,314	39,991	489,520	4,769	494,290

(注) 1. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去等4,769千円であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. セグメント情報の各売上区分につきましては、メディア売上には有料放送事業、オンデマンド事業の売上、ライブ・コンテンツ売上にはイベント事業、ライブハウス事業、マネジメント事業、エージェント事業、アライアンス事業、エンターテイメントカフェ事業の売上、ソリューション売上には、ディストリビューション事業、ファンクラブ事業、EC/MD事業の売上、映像制作売上には映像制作事業の売上がそれぞれ含まれております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益計算書計上額 (注) 2
	メディア	ライブ・コンテンツ	ソリューション	計		
売上高						
メディア売上	2,383,835	—	—	2,383,835	—	2,383,835
ライブ・コンテンツ売上	—	4,426,667	—	4,426,667	—	4,426,667
ソリューション売上	—	—	3,245,667	3,245,667	—	3,245,667
映像制作売上	1,282,651	—	—	1,282,651	—	1,282,651
顧客との契約から生じる収益	3,666,487	4,426,667	3,245,667	11,338,821	—	11,338,821
外部顧客への売上高	3,666,487	4,426,667	3,245,667	11,338,821	—	11,338,821
セグメント間の内部売上高又は振替高	29,370	452,316	7,927	489,613	△489,613	—
計	3,695,857	4,878,983	3,253,594	11,828,435	△489,613	11,338,821
セグメント利益又は損失(△)	337,970	114,004	△104,201	347,774	6,458	354,232

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去等6,458千円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. セグメント情報の各売上区分につきましては、メディア売上には有料放送事業、オンデマンド事業の売上、ライブ・コンテンツ売上にはイベント事業、ライブハウス事業、マネジメント事業、エージェンツ事業、アライアンス事業、エンターテイメントカフェ事業の売上、ソリューション売上には、ディストリビューション事業、ファンクラブ事業、EC/MD事業の売上、映像制作売上には映像制作事業の売上がそれぞれ含まれております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの変更)

第1四半期連結会計期間から、経営・ガバナンスの高度化等を目的とした事業ポートフォリオの再構築を行い、報告セグメントを従来の「メディア・コンテンツ」、「映像制作」から「メディア」、「ライブ・コンテンツ」及び「ソリューション」に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(事業セグメントの利益又は損失の算定方法の重要な変更)

第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの業績をより適切に反映させるために、全社費用の配賦基準を見直し、事業セグメントの利益又は損失の算定方法の変更を行っております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の新しい算定方法に基づき作成したものを開示しております。

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報）」に記載のとおりであります。